

令和3年11月10日

保護者の皆様

町田市立鶴川第三小学校
校長 鱒坂 映子

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果と考察

日頃から本校の教育活動にご理解ご協力をいただき感謝申し上げます。さて、先週末に5月に実施しました「令和3年度全国学力学習状況調査」の結果が文部科学省から送られてまいりました。下記の通り、調査結果及び分析と考察、今後の取組についてお知らせします。

1 教科の調査結果

※令和3年度の問題と解答は、「国立教育政策研究所」のホームページに掲載しています。

【平均正答率】 <国語> <算数>

	平均正答率(%)	平均正答率(%)
本校	67	74
町田市 (公立)	64	71
東京都 (公立)	68	74
全国 (公立)	64.7	70.2

都の平均と比較すると、国語は1ポイント低く、算数は同じ正答率となりました。東京都は国語が全国5位、算数が全国1位(石川県と同点)でしたので、東京都の平均と近い正答率は良好な結果と言えます。

【項目別の結果】

(1) 国語

分類	区分	平均正答率(%)				
		本校	町田市	東京都	全国	
全体		67	64	68	64.7	
内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	65.5	65.2	69.9	68.3
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	84.3	80.5	81.8	77.8
		B 書くこと	63.9	58.5	62.7	60.7
	C 読むこと	53.7	50.1	53.5	47.2	
評価の観点	知識・技能	65.5	65.2	69.9	68.3	
	思考・判断・表現	67.7	63	66.4	62.1	

【課題】

- 知識・技能の定着
 - ・「修飾語と被修飾語の関係」を求める問題 ・漢字の書き（「積み重ねる」「原因」）
- 思考力、判断力、表現力等
 - ・「目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する」設問

【改善への取り組み】

- 普段の文章読解の際に文法の解説をするなど、意図的に組み込み、継続的な習熟を図る。
- 今回の「積」では「面積」「体積」など生活の中で使用する機会が多い漢字であったのにも関わらず、「つ（む）」という訓読みと結び付かなかった。訓読みの特化した漢字練習など意図的に習熟の機会設ける。
- 文章を読み取る活動では、大切な言葉や文章を見付けるにとどまらず、それらを用いて自分で文章を組み立て直すといった文章を書く活動を並行して行っていく。読解の際、書く活動を組み合わせることで表現力の向上を図りたい。

(2) 算数

分類	区分	平均正答率(%)			
		本校	町田市	東京都	全国
全体		74	71	74	70.2
領域	A 数と計算	62.8		65.4	63.1
	B 図形	67.1		63.7	57.9
	C i 測定	73.1		77.7	74.8
	C ii 変化と関係	81.9		79.8	75.9
	D データの活用	78.9		79.5	76.0
評価の観点	知識・技能	77.3	75.3	78.0	74.1
	思考・判断・表現	69.2	66	68.3	65.1

【課題】

- 「A 数と計算」62.8%、「C 測定」73.1%（都の平均値に程遠く特にこの2領域は本校の課題である。）
 - ・「数と計算」では、除数と被除数の関係を把握できていない児童が多かった。
 - ・「測定」時間と時刻の問題と、速さや道のりの問題につまずきが多かった。

【改善への取り組み】

- 文章問題の中で、四則演算の基本的な活用をし、立式の仕方を練習する機会を設ける。
- 算数少人数指導を生かし、習熟の底上げを図る。分割する人数を精選し、丁寧な学習指導を展開する。
- 3年生の「時間と時刻」と、5年生での「速さ」の単元との結びつきを意識させるなど、新単元の導入時には既習事項の内容の振り返りをする。

2 児童意識調査の結果

【全国の平均を3ポイント以上 上回っていた項目】

- ◎朝食を毎日食べている ◎自分には、よいところがあると思う ◎人の役に立つ人間になりたいと思う
- ◎5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた
- ◎友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている ◎算数の勉強は好き

【全国の平均を3ポイント以上 下回っていた項目】

- ▼自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う ▼友達と協力するのは楽しいと思う
- ▼学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う
- ▼5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた ▼国語の勉強は好き

3 考察

「友達の話を最後まで聞く」という意識が高い一方で、「自分と違う意見について考えること」や「友達と協力すること」に楽しみを見出だせない児童が多いことは課題である。校内研究として、国語科の指導方法改善への重要な手がかりとして、今回の結果を大いに役立てていきたい。

また、「ICT機器の活用」についても活用の質・量ともに向上させる必要があると分かった。コロナ流行も大きな影響を与えた一因と考えられる。「3密」防止の取り組みのため、友達との交流の機会が減少し、協力することの喜びを感じる事が難しくなっている。

1回の調査で本校の学力全てが把握(6年生対象、2教科の調査)できるものではない。また、本校の6年生72名という人数を鑑みても、ケアレスミス等による得点の上下によって正答率も大きく変わってくる。年度ごとの結果に一喜一憂することなく、結果から分析・考察された内容をもとに、本校の学力向上の取組をベースとしながら、より良い指導方法を目指していくことが重要と考える。

意識調査では、朝食をきちんと食べている児童が多いことから、ご家庭での基本的な生活習慣が身に付いていることが分かった。また、児童が今の自分を肯定的に捉えていたり、将来に希望をもっていたりするところも、皆様の日々の温かなご支援の賜物である。